

# ブラジル大統領選挙で ボルソナロ氏当選

## ポイント① 「ブラジルのトランプ」とも呼ばれる

10月28日、ブラジル大統領選の決選投票が行なわれました。過激な言動で「ブラジルのトランプ（米大統領）」とも呼ばれる右派で社会自由党のジャイル・ボルソナロ下院議員（63）が、左派で労働党のフェルナンド・アダジ元サンパウロ市長（55）を破って当選しました。任期は2019年1月1日から4年間となります。

ボルソナロ氏の勝因の一つは、汚職や治安悪化への対策であり、犯罪や汚職には厳罰で臨む姿勢です。

## ポイント② 市場重視の経済政策を強調

経済政策では市場重視を強調し、中道右派のテメル現政権の経済改革路線を基本的に継承する方針を示しています。財政規律を重視する経済学者のパウロ・ゲジス氏を新政権の財務相に指名しており、財政再建に向けて年金制度改革や国営企業民営化などを推進する方針です。

金融市場ではこうしたボルソナロ氏の姿勢が評価されているようです。10月7日の第1回投票でボルソナロ氏が45%以上の票を獲得した前から世論調査で高い支持率を維持してきたことを受けて、ブラジル・レアルは9月中旬から米ドルや円に対して上昇してきました。

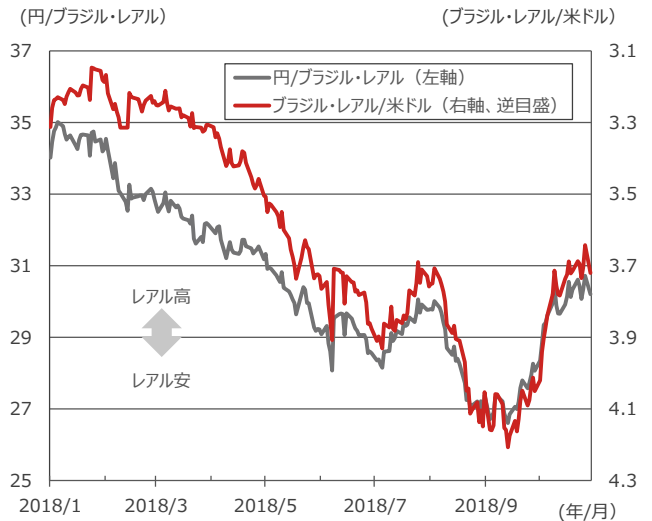
## ポイント③ 国民の対立を回避できるか

一方でボルソナロ氏は差別発言も多く、過去の軍政が秩序と治安を保つうえで一定の役割を果たしたとも述べ、人権や民主主義を軽視するような姿勢が批判を集めています。また、年金制度改革で貧困層が切り捨てられるといった不安感もあるようです。

こうした批判や不安感を抑えて国民の対立を防ぎながら、汚職・治安悪化対策、経済改革などの目標を実現できるか、新大統領の手腕が問われます。

図1：ブラジル・レアルの対米ドル、円為替レート

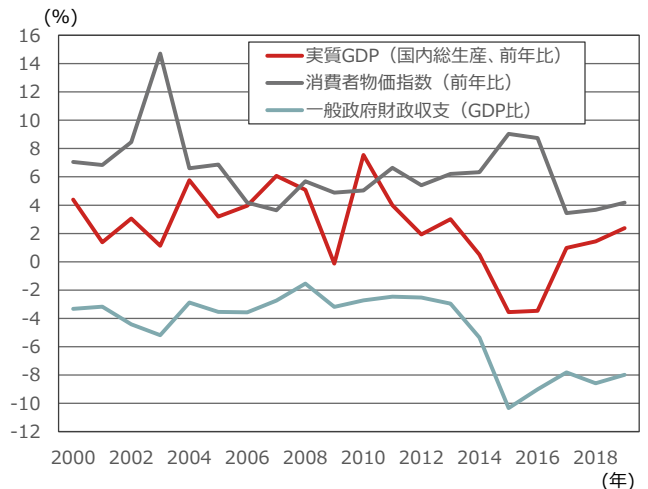
期間：2018年1月1日～2018年10月29日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：ブラジルの経済動向

期間：2000年～2019年、年次



(注) 2018、19年はIMF（国際通貨基金）の見通し

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

10月31日 ブラジル金融政策発表  
11月1日 ブラジル製造業PMI（購買担当者景気指数）（10月）